

# 防災・減災教育と SDGs・ESD に関する考察 伊勢市立伊勢宮川中学校における事例をもとに

○河田慈人<sup>1</sup>・竹之内健介<sup>2</sup>・矢守克也<sup>3</sup>

<sup>1</sup>ひょうご21世紀研究機構人と防災未来センター 主任研究員

<sup>2</sup>香川大学創造工学部 講師

<sup>3</sup>京都大学防災研究所 教授

## 1. 国際的な防災・減災教育の流れと SDGs・ESD

近年、我が国において SDGs の重要性が広く周知されている。また、学校現場においては、SDGs に向けた取り組みが重視されるにあたって、2005 年から 2014 年までの 10 年間に取り組まれた ESD (Education for Sustainable development) 「国連持続可能な開発のための教育の 10 年 (UNDESD、国連 ESD の 10 年)」から 5 年が経過し、2020 年から 2030 年にかけての 10 年間の、ESD for 2030 (Education for Sustainable Development : Towards achieving the SDGs) が示されることとなった。

ESD for 2030 において、「Towards achieving the SDGs」と明示されているように、「SDGs を達成するための ESD」であることが、明確に示されている。(図-1)

阪神・淡路大震災から 10 年を経た 2005 年に兵庫県神戸市において、Hyogo Framework for Action (HFA・兵庫行動枠組)が採択され、その後、2015 年から 2030 年にかけての Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030 (仙台防災枠組)が第 3 回国連防災世界会議において、採択されたことは記憶に新しい。

HFA や Sendai Framework が防災・減災教育と深いつながりがあることは、言うまでもないが、ESD や SDGs に関しても防災・減災教育と関係している。昨今の防災・減災 (教育) に関する研究の中でも SDGs への関連性が言及される機会が増えてきたが、Hyogo Framework や Sendai Framework を踏まえた上で、SDGs や ESD との考察を行うことが望ましいと考えられる。

HFA が採択される前年の 2004 年に、スマトラ沖地震が発生し、津波による犠牲者が 20 万人を数えたこともあって、当時の国際的な関心は高く、また、日本は津波対策が進んでいると考えられていた。アジア防災センターなどを通じて日本から多くの防災教材が各国へ提供されていたが、2011 年には未曾有の大災害である東日本大震災によって、多くの人命が失われることとなった。

現在の日本社会は、国際社会とともに COVID-19 との戦いに全力を注いでいるが、一方、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震、台風や大雪など自然災害のリスクに

直面している。過去の教訓を生かすことなく、「お題目」のように SDGs や ESD を声高に叫ぶだけで、再び自然災害によって多数の犠牲者を出すことになってはならない。第 3 回国連防災世界会議パブリックフォーラム「防災教育交流国際フォーラム」は、内閣府 (防災担当)、文部科学省、国連防災世界会議防災教育日本連絡会から構成され、仙台宣言「レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して」が採択された (国連防災世界会議防災教育日本連絡会 2015)。そして、前文では次のように述べられている。「防災教育はすべての防災対策の礎である。自然災害を乗り越える力は、過去の経験、先人の知恵を学び、家庭・学校・社会において協働で日頃から実践し育んでいくわたしたち一人一人の能力にかかっている。その力を組織的に高める試みが防災教育である。わたしたちは、防災教育を積極的に進め、自然災害から尊い命を一つでも多く救い、多くの人々と協力しながら厳しい状況を克服していかなければならない。本日のフォーラムでは、日本と世界で防災教育に関わる多様なステークホルダーによる交流が行われ、様々な経験と教訓、および活発な発動が紹介された。災害を乗り越え復活する力を備えた「レジリエント」な社会を構築するために、地域ぐるみによる防災教育を通じた地域防災力の向上が必要不可欠であることが確認された。私たちは、国内外のネットワークをもとに以下の活動に取り組み、第 3 回国連防災世界会議で採択されるポスト HFA の推進に貢献していくことを宣言する」

そしてその具体的な実現方法として、4 項目が挙げられている。特に「レジリエントな社会の構築に向けて、『持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD)』との連携を図りつつ、災害アーカイブ等の震災記録の活用を含む、「地域に根ざした」全ての市民を対象とする防災教育モデルの開発、実践、普及、高度化を目指す」は、これまで多くの防災教育の取組が「地域に根ざした」ミクロであり、質的である取り組みの有効性について言及したものであると考えられる。

## 2. 伊勢市立伊勢宮川中学校での防災・減災教育

三重県伊勢市立伊勢宮川中学校及び学区内において、筆者らは風水害を中心とした防災教育・防災活動を展開している。これは、テレビや新聞、スマートフォン等で簡単に知ることができ、「身近なものである」（＝我がこと）と考えられる気象情報であるが、防災・減災に限らず日常生活において、気象情報は「我がこと」として認知されていないと考えられる。そこで、中学校において、地域性（ローカリティ）を高めた気象情報に特化した「地域気象情報」を中心とした授業を実施している。気象情報を「我がこと」として再認識するために、「生活防災」の視点や、グループワーク学習を授業に取り入れ、専門性に特化しがちな気象情報を自分達の生活に関係しているという視点で学習する。具体的には、「気象情報は防災・減災と関係しており、被災しないためにも有効な情報となる」「防災・減災の取組、自然災害は自分達の生活に関係している」、そして、ともしれば忘れてしまいそうな「気象情報は自分達の生活に密接に関係している」という3点に重きを置き、防災・減災において「気象情報」を「我がこと」として考えることを目指している。取組みの中では、地域の危険箇所をマッピングして、自分たちが住む町に存在するリスクについて学んだり、近年の伊勢市を襲った風水害の事例を通じて、地域の具体的リスクを把握、教訓を学んだりする。

この取組みに関して、SDGsやESDの視点から考えると、SDGsにおける「9：産業と技術革新の基盤を作ろう」、「11：住み続けられるまちづくりを」や「13：気候変動に具体的な対策を」に関連していることは勿論、加えて「災害に弱い人々を要配慮者」について学ぶことによって、「3：全ての人に健康と福祉を」や「5：ジェンダー平等を実現しよう」について言及することが可能であり、かつ、「4：質の高い教育をみんなに」や、防災・減災教育を通して災害からの被害を低減することによって「8：働きがいや経済成長も」に繋がると言える。



図-1 SDGとESDの関係（教育出版社より引用）

## 3. 中島学区まちづくり協議会の取組

中島学区まちづくり協議会は伊勢市立伊勢宮川中学校を校区内に持つ伊勢市立中島小学校区の住民組織であり、学区内の各自治会と連携しながら様々な取組みを実施している。

中島学区まちづくり協議会は、安心安全委員会が中心となって、中島小学校における防災教育を展開したり、伊勢宮川中学校の避難所運営マニュアルを作成し、避難所立ち上げ・運営訓練を毎年行うなど、防災の取組みを積極的に進めている。

この避難所立ち上げ・運営訓練はコロナ禍である2021年10月にも、伊勢市立伊勢宮川中学校において市職員と住民によって実施され、ソーシャルディスタンスの確保や、避難所の区画と熱発者や体調不良者の誘導等に関しての確認が実施された。

これらの取組みに関しても、先に述べたSDGsの複数の目標に関連しており、また、地域住民にとっては防災・減災の取組みを通じて、目標4における「生涯学習の機会の提供」にもつながっていると考えられる。また、避難所においてもジェンダーの問題は非常に重要であり、男女共同参画の考え方をより防災・減災の取組みに組み込むことを、SDGsやESDの考え方は加速させることが可能であると考えている。

## 4. 結論・議論

本稿において、兵庫行動枠組と仙台防災枠組、そしてSDGsやESDについての考え方や系譜について紹介を行い、その上でそれらを考える上での具体的な防災・減災教育の取組みについて紹介を行った。

筆者（河田）は、SDGsやESDについての考えを取り入れた教育を学校で実施する際に、防災・減災教育が非常に有効な手段になり得ると確信しており、かつ、複数領域に展開可能であることは防災・減災教育の普及・展開のチャンスでもあると確信している。

これまで、過去の災害について学ぶことで命の尊さや助け合いの精神は、道徳と関連していたり、また、社会や国語、メカニズムを知ることによって理科といったように教科横断型の防災・減災教育の展開が可能であることは、多くの研究者・実践者によって報告されている。

本稿についてはディスカッションセッションでの報告を予定しており、SDGsやESDの視点を取り入れることについて、議論できることを楽しみにしている。

## 参考文献

河田慈人・竹之内健介・矢守克也（2020）、「地域気象情報」を軸とした、災害を「我がこと」として考える取組み 伊勢宮川中学校での防災教育実践，防災教育学研究 1(1),141-152